

豊田民報

日本共産党豊田市委員会
◆豊田市日之出町一・六・六
Tel: 三四・四七二二
毎週一回発行

野党共闘で政権交代めざす衆院選 みよしと豊田で街頭宣伝

日本共産党愛知県委員会が新調した宣伝カーを活用して23日、みよし市と豊田市内で街頭宣伝をしました。(左写真)



角演説会も行いました。

GOTOキャンペーン 見直し遅すぎる

その頃、菅内閣がやっと「GOTOトラベル」キャンペーンの見直しに言及を始めていました。それまでは西村康稔・経済再生大臣が「GOTO」使うかは「国民の皆さんの判断だ」と述べるなど、国民に責任を転嫁していました。

日本共産党は繰り返し対案を示しています。

- ・全国一律のGOTO事業はやめる。
- ・地域ごとの事業に切り替え、それを国が支援する。
- ・小規模事業者にも支援が届くよう改善する。
- ・間接支援だけでなく、持続化給付金第2弾など直接支援を行う。



GOTOトラベルもGOTOイートも、使える人が限られる不公平な制度です。全ての国民に効果がある消費税5%に戻すことを提案、と本多予定候補。

ドイツやイギリスなど、日本の消費税にあたる付加価値税を期間限定ですが下げている。消費税減税は国際的には一般的な対策です。

学会会議への人事介入 違法で違憲

菅首相による日本学術会議の新会員任命拒否は、国会審議によって違法性・違憲性がより明らかになりました。任命拒否の撤回を訴えました。

原水爆被災者が豊田市に 被爆者援護を要請

愛知県原水爆被災者の会(愛友会)は毎年、県内の自治体を訪問し要請と懇談をおこなっています。

愛友会の金本弘理事長、大村義則副理事長らは10日、豊田市を訪れ、秘書課、学校教育課、保健部総務課、豊田市議会事務局と懇談。根本みはる豊田市議、豊田地域原水爆禁止協議会の本多のぶひろ理事も同席しました。(左写真)



日本政府に対して、すみやかに核兵器禁止条約に調印・批准することを求める意見をあげることや、非核平和行政を広げること、小中学校の平和教育、

被爆2世に対する医療費助成などを要請。

毎年の訪問で、市長と市議会議長に「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」への署名を求めています。が、「国際社会の動向、市民の機運の高まりを注視し、適切に対応する」と同じ回答がされたことは残念でした。



もとむら伸子
衆議院議員



本多のぶひろ衆院選
愛知11区予定候補
根本みはる
豊田市議会議員

無料 法律・生活相談
おこなっています

◆第2土曜日 午前10時～12時
◆法律相談は弁護士
◆生活相談は市議会議員が相談にのります。
◆要予約。お申し込みは党市議会議員か
日本共産党西三地区委員会まで
Tel: 〇五六四―二三―二七八五

教育カフェ 今こそ少人数数学級を

豊田市の教育環境を考える会

豊田市の教育環境を考える会主催の教育カフェ。21日は、学校の少人数数学級について、臨時教員制度の改善を求める会の上村和範さんを招いて話し合いを行いました。

コロナ禍の学校では、春に臨時休校となった後の分散登校では、「学校の新しい生活様式」(下図)である教室の生徒間の距離を「縦190センチ、横120センチ、斜め135センチ取る方法」で、半分の20人以下学級になり、ソーシャルディスタンスが可能で



した。通常に戻った後は、少人数数学級になっていない教室では、机は教室の後ろいっばいまで並び、給食配膳台や教員の机まで廊下に出しても、人と人との間隔は1mもない状態です。

名古屋市会では9月、「国会及び政府に対し、教職員定数の改善や施設整備に係る予算を拡充し、全国統一的な制度として、少人数数学級を推進するよう強く要望する」という意見書が、全会一致で採択されました。

しかし政府は、コロナの感染が拡大する一方で、学級規模を縮小するよりも、適正な規模を考えるとの方向性を示しています。教職員の非正規・多忙化から、正規での採用を増やさなければ、教員不足は解消できません。

豊田市では、かつて「教室にせめて扇風機をつけて」と請願署名に取り組んできた結果、扇風機が早く取り付けられました。少人数数学級についても、粘りづよく声を上げていく必要があります。

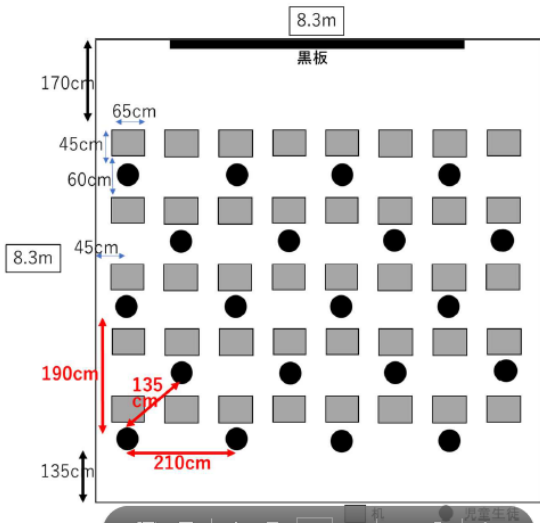
にこにこバスで病院・買い物に行けるように

住みよい上郷を創る会が支所と懇談

11月18日、「住みよい上郷を創る会」が、上郷コミュニティセンターで、にこにこバスの利用についての要望・懇談を行いました。根本みはる市議も同席しました。

上郷のにこにこバスは、2台のバスが週2回、上郷線と末野原線を走っています。利用者の人数が大幅に違うことが、9月議会での質疑で明らかとなっています。「バスで豊寿園に行きたい」という声は今も地域住民から多くあり、地域の課題ともいえます。

住みよい豊田を創る会が、2021年度予算編成に対する重点要望書を提出しており、その回答では、「上郷地域バスの利用促進を図るとともに、公共交通基本計画に基づき、より効率的な運用ができるよう、引き続き、地域バス運営協議会や関係機関と協議検討を行う。」とのこと。便利に利用できるバスをめざして、地域からの声を聞き、届けていくことが求められています。



文科省「学校の新しい生活様式」

リモート憲法講座

菅政権下の憲法問題を考える

講師：愛敬 浩二

早稲田大学法学部教授

12月13日(日)

午後2時～4時

豊田市民活動センター(松坂屋9階)

主催 豊田9条の会



支所長(左)と懇談する会の人たちと根本市議